

平成27年度 学校図書館教育経営方針

大田市立大田小学校

教育目標 心豊かにたくましく生きる大田っ子の育成

基本目標

- (1) しっかり考え、進んで学び取ろうとする子どもの育成
- (2) 思いやりの心を持ち、ともに助け合おうとする子どもの育成
- (3) 健康で安全な生活を送ろうとする子どもの育成

心豊かな心を持ち、自ら学ぶためには、読書活動や調べ学習は欠かすことができないものである。

子ども達の心に響く本と数多く出合わせ、読書を重ねることによって、本校の考える豊かな心が育まれるものとする。また、しっかり考え、進んで学び取ることを支えるものとして、図書館を活用した調べ学習の充実や情報活用能力の育成は欠かせないものである。こうしたことから、本校の学校教育目標を達成していく上で、学校図書館教育の担う役割は大きい。

平成26年度は、「学校図書館活用教育研究事業」を受け、下記のようなことを行った。

- ・司書教諭を中心に、各学年の発達段階や児童の実態に応じて、担任や学校図書館司書と連携し、効果的な学校図書館活用法を研究（課題設定、参考資料選定、まとめ方）した。
- ・今までの取り組みを基本に、司書教諭及び学校図書館司書、担任が連携した指導方法の研究、授業実践を通して改善を図った。
- ・学校図書館活用教育の授業の実践を行った。

その結果、教職員が図書館教育の重要性を意識し、図書館を有効に活用したり、図書館司書と担任が連携した授業実践をしたりするようになった。また、児童一人当たりの貸し出し冊数が4割増えた。

また、激動する社会情勢の中、単なる知識や技能を詰め込むのではなく、読解力や思考力、表現力を身につけさせる必要性もある。子ども自身が自ら課題をみつけ、自ら考え、自ら解決していくという学びが大切であり、情報活用能力の育成は欠くことができない。情報が多き現代社会では、情報を取捨選択する力も培う必要がある。

子ども達を様々な資料と出合わせることで、子ども達の知的好奇心を育て、学習意欲を喚起し学びを継続する力を育てることができると考える。また、すべての学習の基礎となる読書力を育てる上からも、図書館教育の担う役割は大きい。

平成26年度の取組を通して、見えてきた課題から、今後の取組に生かしていきたいことは以下の3点である。

- 児童の読書量が増えてきてはいるが、個人差が大きい。児童一人一人の発達段階にあった本を選んだり、いろいろなジャンルの本に親しんだりできるように、選書の質の向上が課題としてあげられる。
 - 情報活用能力の育成に向かって、重点単元を設け、取り組んできたが、まだ十分に身につけているとはいえない。引き続き、抜き書きや要約などの必要な情報を取捨選択する力を発達の段階に応じて身につけさせる必要がある。
 - 図書館活用教育に取り組むことが難しいと感じている教職員もいる。担任、司書教諭、学校司書が連携し、授業実践を重ねていき、さらに学校全体で図書館活用教育を推進していく。
- そこで、今年度は、「**読書センター**」「**情報学習センター**」としての機能を充実させていく。

<p>読書センター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読書推進 おすすめ本 図書の配架の工夫

<p>情報学習センター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間計画作成 ・情報活用能力育成のための授業

取 り 組 み	
4月	○図書館オリエンテーション ○各学年おすすめ本の選定
5月	○おすすめ本紹介、カード配布 ○1学期に司書教諭・学校司書が行う授業を話し合う
6月	
7月	○1学期の取り組みの反省 ○図書館職員作業
8月	○教職員研修会（①要約 ②1時間でプレゼンをしよう） ○年間計画の見直し ○2学期に司書教諭・学校司書が行う授業を話し合う ○図書館職員作業
9月	○4年研究授業
10月	
11月	○読書週間・集会
12月	○2学期の取り組みの反省、3学期の計画
1月	○1年研究授業
2月	
3月	○今年度の取り組みの反省